

講義名	経営革新論					授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3 時限				
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード	

主題と概要
今から40年ほど前、「会社の寿命は30年」というセンセーショナルなタイトルの書籍がベストセラーになりました。日経ビジネスという経済雑誌に連載された記事をもとに書かれた本でした。当時、大学を出て仕事を始めたばかりの僕は、「会社の寿命が人間の平均寿命より短いなんて信じられない」という思いでした。このセンセーショナルなフレーズを正確に言うと「同じことばかりやっている企業の寿命は長くもって30年だ」ということになります。実際のところ、30年以上の寿命を維持している会社は多くありますし、世界で最も古い会社（すなわち最も長生きしている会社で「金剛組」といいます）は、明治大正の時代に生まれたとされています。この会社は、現在140歳くらいということになります。これは極端な例ですが、世の中に多く存在する長生きの会社に共通することがあります。それは現状に満足することなく、常に自分等の会社を「変えている」ということです。これはある意味では当然のことです。世の中は常に変化しています。その変化を受け入れずに自分たちの殻に閉じこもっている、自ずと時代遅れになり、やがて誰も振り向いてくれなくなってしまってしまう。このように、常に自分たちの会社を変えることを「経営革新」といいます。英語では「イノベーション」といいますが、ほぼ日本語として市民権を得ている言葉です。本事業では企業が「経営革新」あるいは「イノベーション」を継続的に実施していくためにはどのような姿勢が必要かを学んでいきます。

到達目標
多くの学生（起業する学生以外）は企業に就職するでしょう。その企業が発展するためには持続的な経営革新なことは先ほど述べました。この授業ではいかに述べる二つの能力を身につけてもらいたいと考えます。まず一つは、ある企業がどの程度経営革新に積極的に臨んでできるかを判断する能力を有しているかという点です。これは「企業診断能力」と呼ばれるものになります。2つ目の能力は、企業診断で明確になった課題を解決しつつ従来の発展の道筋を確保する「戦略策定能力」です。 以上の二つの能力を、この授業を通じて身につけるよう頑張ってください。 上記を皆さんの立場から「〇〇のことができるようになる」という形で表現すると以下ようになります。繰り返しですが、確認して履修登録をしてください。 ①様々な視点から企業を診断することができるようになる。 ②企業の戦略を策定することができるようになる。 以上です。

提出課題
授業の節目で「レポート」あるいは「書きもの」を課します。授業中に行う場合もありますし、期限を決めて提出するよう指示する場合があります。授業における教員の指示、及びポータルを通じての告知を注意して見るように心がけてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
フィードバックは授業の中での紹介を通じて行います。 なお、授業においてレポートの内容を紹介する場合、個人名を出すことはしません。

評価の基準
①授業での貢献：30％（web等の応答状況で判断します） ②レポート、書き物等の内容：30％（原則としてweb等を通じて行います） ③期末筆記テスト：40％ ③の「筆記テスト」は、レポート（web等を含む）等で実施する場合があります。

履修にあたっての注意・助言他
「到達目標」のところで述べた二つの能力は、企業経営に関わる種々の学問領域を学ぶことで身につけることができます。 すなわち、企業診断能力は、PPM分析、管理会計、財務会計、マーケティング、組織、といったことを学ぶことで、高めることができます。戦略策定能力は、基本的には企業診断で明確になった課題を解決するための方法を与えることになりますので、現状と将来のあるべき姿の間に横たわるギャップをいかに解決するかを考えることになり、創造的独創的な発想が必要になります。 各論については、それぞれ関係する授業でしっかりと学ぶよう心がけてください。合わせて、この授業を通じて疑問や興味を感じた点に関しては、さらに深く学ぶ姿勢を持続することが大切です。

教科書				
.新装版 企業参謀.	大前研一	プレジデント社	2200	

参考図書				

その他
教科書以外の資料（事例研究に関わる資料）は原則として教員が準備します。ただし、原則としてポータルからのダウンロードとなります。講義連絡及び授業中の教員の指示に注意してください。 参考文献については、授業で紹介します。

授業計画
1. シラバスの確認（授業概要、授業目的、受講にあたっての留意事項等） 2. 戦略的思考入門① 3. 戦略的思考入門② 4. 企業における戦略的思考① 5. 企業における戦略的思考② 6. 中期経営戦略 7. PM戦略 8. 製品市場戦略と 9. 中間のまとめ 10. 戦略的に考えるということ 11. 戦略経営計画立案のプロセス、戦略的思考家の条件、新しい経済環境の吟味 12. 戦略の質的転換のために 13. 戦略的思考に基づいた企業戦略 14. 戦略の計画の核心 15. 全体のまとめ ＜上記は教科書の主な項目を列挙しています＞ ＜授業内容は、社会情勢、授業の進捗度によって変更場合があります＞

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
原則として、教科書に沿って授業を進めます。教科書はかなり以前に書かれたものですが、企業の経営革新の状況を診断したり、自らが組織を変革するときに武器となる種々のツールを、非常にうまくまとめていると感じています。 授業の進度を意識しながら、何回か先の部分を読むように心がけてください。 本は回数を重ねて読む続けることで、読む人の血となり肉となります。何度も繰り返し読むようにしてください。 また、かなり難しい概念も出てきます。十分に時間をとって、予習及び復習を行うことを期待します。 以上の流れの中で、反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）を実施する場合があります。ただし、現段階では、すべての回で反転授業を行うことは考えていません。 第1回目の授業で、具体的に指示します。 学習時間の目安は、予習2時間、復習2時間です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
本授業は、商学部・経営学科の「起業・事業承継コース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、①企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できる ②変化の激しい経営環境の動きに強い関心を持ち、③企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができる、あるいは自らが事業を創出できる、この3つを目標としています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
各回の授業中および授業後に課すレポートや課題への回答は、原則としてweb等を使用します。ただし、期末レポートはこの限りではありません。

実務経験の有無及び活用
大学卒業後は、製薬会社、機械工具製造会社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いまから三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルティング会社に転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。 2022年に本学教員となりました。

備考
ありません。